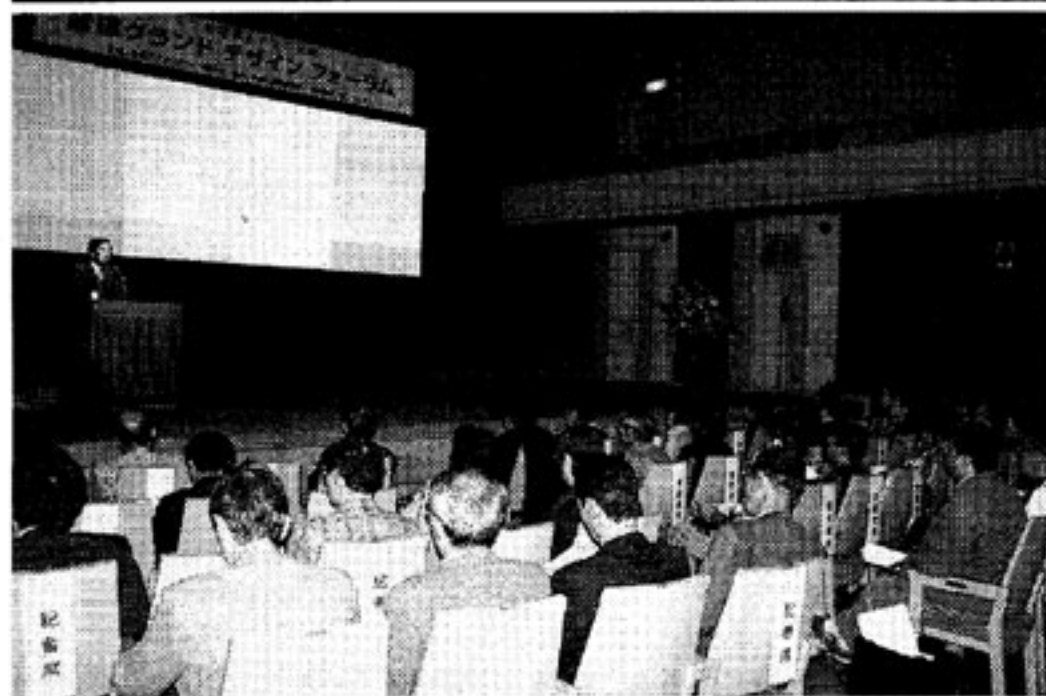


市の将来像探る「グランドデザインフォーラム」



彦根の将来像や市町合併の提言が示されたフォーラム

彦根

彦根市が将来目指すべき姿をさぐる「彦根グランドデザインフォーラム」

（彦根グランドデザイン研究会主催）

が23日、ひこね市文化プラザで市民ら約250

研究会
提言

人が参加して開かれた。同研究会は経済活性化と教育改革を2本柱にした六つの挑戦を提言し、市町合併では「将来的に東琵琶連合全体での合併」を掲げた。

【松井蘭夫】

経済活性化、教育改革柱に六つの挑戦

小出英樹・研究会代表幹事は「一言いっ放しではなく、関係者を招いた人間力メンバーや市民の協力で（提言の）実現を」とあいさつ。市民アンケートの結果などを基にまとめた提言「ひこねグランドデザイン」を、彦根市出身の小田全宏・日本政策フロンティア代表が発表した。

市町合併「東琵琶連合」全体で

市町合併では大上、愛知、坂田郡や長浜市、近江八幡市なども視野に入れ「地方分権、三位一体改革を踏まえ、マクロ的、長期的視野に立ち合併を考え、将来的に『東琵琶連合』全体での合併」を提言した。

提言は、第1の挑戦の「経済活性化策」では、行政や商議所などが一体となった企業誘致▽総合的な観光戦略の構築で、現在の約2倍の年間500万人の来訪者誘致▽起業家の育成——などの取り組みを「状と展望」と題し講演し示し、第2の挑戦「教育改革」を述べた。

最後に元三重県知事の北川正恭・早稲田大学大学院教授が「ローカルマニフェストの現